

2026年3月31日

「被爆80年企画展 ヒロシマ1945」 日本写真協会賞学芸賞を受賞

中国新聞社編集局(展覧会主催事務局)
〒730-8677 広島市中区土橋町7-1

東京都写真美術館(目黒区)で昨年開催した「被爆80年企画展 ヒロシマ1945」が2026年日本写真協会賞の学芸賞を受賞することになりました。6月1日に東京都内で表彰式があるほか、受賞作品展なども予定されています。詳しくは別紙の日本写真協会プレスリリースをご参照ください。日本写真協会賞と表彰式についてのお問い合わせは別紙にある日本写真協会の連絡先へ、展示内容や素材提供についてのお問い合わせは中国新聞社編集局(peacemedia@chugoku-np.co.jp 082-236-2654)へお願いいたします。

【開催概要】

会期 | 2025年5月31日 - 8月17日(実質68日間)
主催 | 中国新聞社 朝日新聞社 毎日新聞社 中国放送 共同通信社
共催 | 東京都写真美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)
後援 | 広島市 日本放送協会 日本写真家協会 日本ユネスコ国内委員会 広島県(公財)広島平和文化センター
協力 | 株式会社フレームマン 株式会社写真弘社 広島国際文化財団



【展示概要】

- ✓ 1945年8月6日から年末までを3つの時期に分け、推計で「約14万人」とされる広島原爆被害の実態を時系列に近い構成で伝えました
- ✓ 被災した市民、報道機関のカメラマン、写真家それぞれの視点から撮影した写真160点余と、1945年の広島を記録する動画として現存が確認されている日本映画社撮影の2点で構成
- ✓ 国連教育科学文化機関(ユネスコ)「世界の記憶」に国際登録することを目指し、2023年秋に「広島原爆の視覚的資料—1945年の写真と映像」として申請した資料約1530点を基に構成
- ✓ 原爆記録写真を各自で所蔵してきた報道機関が共同で展覧会を開くのは初。広島平和記念資料館、撮影者遺族が持つ写真と合わせ、所蔵元という意味でも幅広い展示構成
- ✓ 撮影者自身による記録、広島平和記念資料館の学芸員や戦後史の研究者による調査、報道機関の記者たちによる綿密な取材を通じて撮影状況や被写体となった市民のその後の足取りを解明した資料
- ✓ 秋篠宮ご一家、ノルウェー・ノーベル賞委員会のフリードネス委員長、日本被団協の田中熙巳代表委員、イランなど各国の駐日大使、ミュージシャン吉川晃司さん、俳優の綾瀬はるかさんらが来場

【撮影者】27人+2団体

広島原爆被災撮影者の会：松重三男、木村権一、深田敏夫、尾木正己、鴉田藤太郎、尾糠政美、岸田貢宜、川本俊雄、川原四儀、北勲、岸本吉太、森本太一、林寿麿、陸軍船舶司令部写真班

※1978年に広島県や隣県に住む原爆記録写真の撮影者たちが結成。多くを広島平和記念資料館で所蔵

中国新聞社：山田精三、松重美人、山本儀江、谷川長次

朝日新聞社：宮武甫、松本栄一

毎日新聞社：国平幸男、渡辺喜四郎、山上圓太郎、新見達郎

同盟通信社：佐伯敬、中田左都男 ※共同通信社に加え広島大学原爆放射線医科学研究所も一部所蔵

写真家：林重男、菊池俊吉

日本映画社(中国放送関連の1点と、日本放送協会所蔵の1点)

関係各位

2026年3月吉日
公益社団法人 日本写真協会

**2026年日本写真協会賞 受賞者が決定しましたので、
お知らせ申し上げます。**

公益社団法人日本写真協会（代表理事会長 青木良和）は、2026年「日本写真協会賞」各賞の選考を行い、この程、受賞者が決定いたしました。表彰式は6月1日（月）にJA 共済ビルカンファレンスホールにおいて行います。

「日本写真協会賞」は、公益社団法人日本写真協会が活動の一環として毎年実施するもので、本年で第74回目になります。わが国の写真文化活動に顕著な功績が認められた内外の個人・団体をはじめ、優れた作品、論評を発表された方々の中から、以下のような各賞の表彰基準に従い、受賞者が選ばれました。

つきましては、貴メディアにてご紹介いただけますと幸いです。

記

○作家賞：日本国内で、優れた写真作品を近年継続して発表し、写真界に多大な影響を及ぼした個人または団体。

受賞者 ^{いづけんろう}井津建郎氏 1945年生まれ 大阪府出身

○新人賞：日本国内で近年写真作品を発表した将来を期待される有能な新人写真家または団体。

受賞者 ^{みずしまたかひろ}水島貴大氏 1988年生まれ 東京都出身

○功労賞：多年にわたり日本写真文化のために顕著な貢献をした個人または団体。

受賞者 ^{くうれんぼう}空蓮房 2006年設立 東京都

○文化振興賞：日本国内で地域の写真文化向上のために顕著な貢献をした個人または団体。
あるいは、日本写真文化のために国際的に顕著な功績のあった国内外の個人または団体。

受賞者 クリスティーネ・フリシンゲリー [Christine Frisinghelli] 氏
1945年生まれ オーストリア出身

○学芸賞：日本国内で優れた写真評論・写真研究などを発表し、写真界に影響を及ぼした個人または団体。

受賞者 被爆80年企画展 ヒロシマ 1945

本年度の選考委員：

石川直樹 氏 (写真家)
太田菜穂子 氏 (キュレーター)
小原真史 氏 (キュレーター／東京工芸大学准教授)
今 道子 氏 (写真家)
ハービー・山口 氏 (写真家)

<50音順>

日本写真協会賞受賞作品展

受賞された方々のご紹介と、作家賞、新人賞を受賞された2名の写真家の作品と、学芸賞を受賞された展覧会による作品をご覧ください。

会期：5月29日（金）～6月4日（木）

午前10:00～午後7:00（最終日は午後4:00まで・入館は終了10分前まで）

場所：富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1

（港区赤坂9-7-3 フジフィルム スクエア内 Tel:03-6271-3351）

<https://www.fujifilm.co.jp/photosalon/> 会期中無休／入館無料

日本写真協会賞表彰式

6月1日（月） 午後1:30～（受付開始：午後1:00～）

JA 共済ビルカンファレンスホール

（東京都千代田区平河町二丁目7番9号 JA 共済ビル1階）

*この件に関するお問い合わせ、「日本写真協会賞表彰式」取材申込などにつきましては、当協会事務局：庄または武藤（Tel：03-5276-3585 E-mail：event@psj.or.jp）までご連絡下さいますようお願いいたします。

以上



（公社）日本写真協会は、1952（昭和27）年に「写真を通じて国際親善の増進と、写真文化の普及、発展に寄与すること」を目的として、外務省より社団法人の認可を受け設立された団体です。2011（平成23）年4月1日に「公益社団法人」に移行し、2022年に設立70周年を迎えました。

現在の会員は、プロ・アマチュア写真家、写真評論家、学術技術関係者、教育関係者、ジャーナリスト、写真映像に関する幅広い団体・事業家など約1,300人、及び賛助会員として60企業・団体で構成されており、日本の写真界各分野を包括した、わが国唯一の写真に関する総合的な文化団体として活動しています。



公益社団法人 日本写真協会

東京都千代田区一番町25

JCIIビル4階 〒102-0082

URL：<https://www.psj.or.jp>

TEL:03-5276-3585 FAX:03-5276-3586

2026年 日本写真協会賞 受賞理由一覧

賞名	受賞者	受賞理由
作家賞	いづ けんろう 井津 建郎	井津建郎氏が聖地を撮影した作品には強い存在感と美しさを感じられる。14×20 インチの大判カメラでプラチナプリントの作品に作り上げるのは容易なことではない。写真集『もののおはれ・無常の美』(2025年、ナツエリ・プレス)では、三部作(幽玄 寂び 詫び)として能面・神威・野花などの日本の美をモノクロの陰翳と柔和で繊細なプラチナプリントで表現した。カンボジアに小児病院を設立するなど社会貢献活動にも尽くしてきた。これらの功績に対して。
新人賞	みずしま たかひろ 水島 貴大	写真展「環島回憶録」は、2020年から延べ5年間に渡り台湾全土を撮影した成果だ。「環島」とは台湾を周回する旅の道をさし、この旅を経て初めて台湾に生きる一人と認められると言う。台湾に自らの居場所を作り、その土地に染み付いた歴史や人々の息吹を活写し、偶然を味方に、予定調和に反した写真展に結実させた。作家が今後いかなる方向に進み、どんな景色を見せてくれるのか、期待を込めて。
功労賞	くう れん ぼう 空 蓮 房	浄土宗伝授山長應院住職の谷口昌良氏はアメリカで写真を学び、帰国後は写真コレクターとして膨大な作品と写真集を蒐集し、境内に2006年、ギャラリー「空蓮房」を開設して数多くの鑑賞者に特別な写真体験を長年にわたり提供してきた。東日本大震災を契機に、氏はそれらの蒐集品をサンフランシスコ近代美術館、東京国立近代美術館に惜しみなく寄贈し、日本のみならず国際的な写真文化の継承・発展に貢献した。この功労に対して。
文化振興賞	クリスティーネ・フリシンゲリー (Christine Frisinghelli)	クリスティーネ・フリシンゲリー氏は、キュレーターとして、1970年代に他に先駆け数多くの日本の現代写真家をヨーロッパに紹介した。1980年からは写真雑誌『カメラ・オーストリア・インターナショナル』を写真家・キュレーターのマンフレッド・ウィルマン氏、写真家の古屋誠一氏とともにオーストリアのグラーツで創刊し、2010年まで編集長を務めた。ヨーロッパにおける日本の写真文化の紹介・啓蒙に果たした多大な功績に対して。
学芸賞	被爆 80 年企画展 ヒロシマ 1945	「被爆 80 年企画展 ヒロシマ 1945」は、中国新聞をはじめとする新聞社・通信社の記者らが原爆関連写真の撮影者・撮影時期・撮影場所はもとより写された被爆者に至るまでを同定する綿密な調査と資料保存を元に、報道 5 社が連携して開催された。原爆投下という未曾有の事態に遭遇した被爆者・記録者と、その記録を守った人々の生を前景化しようという強い意思が感じられ、人びとの記憶に残る写真展だ。この功績に対して。

《選考委員》

石川直樹氏(写真家)、太田菜穂子氏(キュレーター)、小原真史氏(キュレーター、東京工芸大学准教授)、今道子氏(写真家)、ハービー・山口氏(写真家)

(五十音順・敬称略)